

## 近況

「畳は多様な使い方ができ、敷き方一つで雰囲気が変わる。提案できる畳屋になりたい」と話すのは、松葉製畳（高山市森下町）の松葉清幸社長（48）。

天然のイ草を使った畳表の魅力に引かれ、産地の熊本県まで足を運んで研修に参加する。「農家から直接知識を得られ、自信を持って顧客に説明できる」と手応えを語る。

地元のイベントや会員制交流サイト（SNS）を通して、畳の魅力を伝える。幼稚園などで卒園記念に畳の材料で写真立てを作ってもらった活動も昨年から続ける。

「昔ながらの座敷は減っているが、床に座りたいという希望はある。畳のスペースが欲しいと思ってもらえるよう、発信していきたい」と意気込む。

## 畳の多様な使い方提案

